

#### IV 研究の成果と課題

##### 1 【視点1】複式学級のよさを生かした<考えの共有>

成果	課題
<p>○ 学習内容を学年間でそろえて授業を実施することで、異学年の子供同士が協力し合ったり学び合ったりする活動の場を多く設定できるようになり、学習内容の定着がより図られるようになってきた。</p>	<p>△ 既存の年間指導計画では、単元の配列が十分そろっていない。可能な限り、学習内容を学年間でそろえた年間指導計画の見直しが必要である。</p>
<p>○ 複式学習指導の進め方を見直し、教師がファシリテーター、コーディネーターの役割を担うことで、より子供主体で学習を進めることができるようになってきた。</p>	<p>△ 学習活動が多かったり複雑だったりすると、子供が主体的に学習を進められず、教師の個別対応が十分でできなかった。学習内容の精選を図り、学習活動をよりシンプルにしていく必要がある。</p>
<p>○ 共通点と相違点を生かした話し合いをすることで、考えの理由までを理解するようになり、自分の考えに生かすことができるようになってきた。</p>	<p>△ 他者の考えを自分の考えに十分生かさないことが依然としてある。相違点をより意識した話し合いを意図的に仕組み、新たな視点から自分の考えを見直すことで、自分の考えが広がったり深まったりする経験をこれまで以上にさせる必要がある。</p>

##### 2 【視点2】複式学級のよさを生かした<学びの自覚化>

成果	課題
<p>○ 子供たちの考えを基にした学習のまとめを行うことで、子供たちが自分たちの考えや話し合いの仕方に自信をもち、より主体的に学習に取り組むようになってきた。</p>	<p>△ 学習のまとめを行う際、学習のめあてと子供たちの活動にずれがあり、共通点を活用した学習のまとめをつくれなかった。学習のめあての在り方について研究を深めていく必要がある。</p>
<p>○ 自分の変容を捉える考え直しの時間を設定することで、考えの変容が学びであるという意識を子供がもてるようになってきた。</p>	
<p>○ 自分の考えの変容とその要因の振り返りを行うことで、自分や他者の考えのよさに気付いたり、考えの変容を実感したりすることができるようになってきた。</p>	<p>△ 振り返りに多くの時間を費やすことがあった。授業の目的に合わせて、視点を絞ったり、端的に表現できるように表現の仕方を工夫させたり、より効率的に振り返ることができるようにする必要がある。</p>